

<b>Title</b>	景観論の可能性についての覚書：「文化的転回」との関連で
<b>Author</b>	山野, 正彦
<b>Citation</b>	人文研究. 53 卷 3 号, p.129-150.
<b>Issue Date</b>	2001-12
<b>ISSN</b>	0491-3329
<b>Type</b>	Departmental Bulletin Paper
<b>Textversion</b>	Publisher
<b>Publisher</b>	大阪市立大学大学院文学研究科
<b>Description</b>	

Placed on: Osaka City University Repository

## 景観論の可能性についての覚書

### — 「文化的転回」との関連で —

山 野 正 彦

#### 1. はじめに

今日、人文・社会科学の共通した課題である、さまざまな人間（社会）の生活実践の解明に貢献できる、地理学本来の知的財産の提示が求められている。社会理論、カルチュラル・スタディーズ、政治経済学アプローチ、アナル学派のトータルな日常生活への関心など、他学科・他領域からの刺激は過去十数年における地理学の議論を活気づけてきた。とくに人文・社会科学の多くを巻き込んだポストモダンをめぐる論争は、地理学における都市問題、都市景観、ジェンダー、消費などに関する新しい研究主題をもたらした。しかしそれらを受容する受け皿となるべき、地理学の本質—地理学の研究対象は何か、という核心の問題については、未だ明確な合意があるとは言えず、また他の隣接学科にもこの地理学の対象をめぐる錯綜した事情が十分に認識されているとは言い難い。学界や社会における地理学のイメージが必ずしもはっきりしないのである。

地理学の研究対象を明確な形で概念化する努力は19世紀半ばのリッターの時代から続けられてきたにもかかわらず、現在なおさまざまな議論が混在する。たとえば世界認識に関する従来のパラダイムにおける歴史的観点の偏重を指摘して、これを空間的な同時性や並存の視点の採用によって緩和しようとする最近のポストモダンの議論の幾つかは、「空間性」について注目したが、地理学内部において核心となる「空間メタファー」についての統一した用語は画定されてはいない。具体的に言うなら、「空間」(space) という用語は、科学一般で使用されるため、普遍的な用語でありすぎるし、「地域」(region) は今やあまりにも過去概念となってしまった。「場所」(place) は人文主義地理学者によって人間主体が環境世界に付与した意味や価値の貯蔵庫としての定義を与えられたが、地理学の全体を覆うにはやや独特の概念に過ぎる。実証主義者、人文主義者、ポスト構造主義者らのすべてにとって、共通して使用価値を見出すことのできる用語が未だ確認され、合意を見ていない現状なのである。

筆者はかねてより、フンボルト、シュリユーター以来の、そして人文主義地理学者の関心でもあった、古くして新しい概念である「景観」(landscape, Landschaft) 概念こそ、上記の課題に対する有力な回答の一つではありえないだろうかと考えている。なぜなら「景観」は物質

的な要素とイメージ的・意味的な要素の両方を内包することができ、目に見えるもの、五感によって知覚しうるものから出発して、それら表層の内部に隠された本質に達すること、表層を出現させる仕組みを露呈させることを可能にする。「景観」はわたしたちの日常生活のコンテクストとしての「場所」の具体的な姿であり、わたしたちは「場所」の目に見える物質的な表層(外観)としての「景観」の観察を出発点にして、「場所」の記述と理解に到達することができ、さらにその背後にある、社会、経済、文化、政治などの問題点に迫ることができる。この70年代の(現象学的)人文主義地理学から得た思想をもとに、80年代に顕著だった「空間の構造化」や「空間の生産」論をはじめとする社会理論からの刺激を経験し、80年代末からは、新しい文化地理学とポストモダン地理学の議論の展開による影響を受けて、今や景観論は新しい概念の内包と課題領域を獲得することになった。

小論は近年の人文・社会科学の動向を概観したうえで、80年代末以降、最近にいたるまでの文化・社会地理学における景観研究の動向を展望し、現代における「景観」概念の定義づけと景観論研究の課題と方法を明瞭にすることを目標とする。しかし課題の大きいことと紙数の制約から、さし当たりこれからのより詳細な考察の積み重ねのための出発点として、筆者が最近折りに触れて考え、書きつけた事項の提示と、問題の概略を展望することにとどまるであろう。言わずもがなであるが、景観論の有効性の検討のためには、実際の具体的な教育・研究実践を示すことが必要であることはもちろんである。小論はそのための筆者の覚書にすぎない。あらかじめ書き添えておきたい。

筆者が「景観」概念の可能性を検討するのは、地理学というディシプリンの仕事は地上の景観を透徹した目で観察し、先入主を排除した思考を経て、濃密な記述を果たし、人間の地上に居住するという実践についての知を獲得することに向けられていると考えるからにはほかならない。このような地理学の課題は、他の人文・社会諸学科にも十分貢献しうる内容と成果を生み出すであろう。地理学はこれまであまりにも自己の学科のコンテクストの中に閉じこもりすぎたし、他の分科との共通の場についての意味ある発言をしてこなかった。隣接学科に対し地理学から十分な情報を発信することによって、現代の共通の課題について貢献してゆく必要があるだろう。

代表的な人文主義地理学者の一人バットィマー (Buttimer,A.) は、最近の自著の中で次のように述べた。

「学問の実践が完全な状態にあるためには、教育上必要なことからの変化や事実を解き明かす新しい研究上の挑戦にたいする、柔軟さが必要である。理想的には個々の学者たち、学部、研究チームが、所与の資源、目的、文脈のもとで、自己のアジェンダを設計し、かような変化する需要に適応させるという責任を負うべきである」(Buttimer,A. 1993.212.)。

地理学的景観論はシュリューターやサウアー以来の形態学から、今日のテクストとしての景観解釈論にいたるまでの長い伝統と学問的蓄積を持っている。景観の現状から現代の問題点を批判すること、そして望ましい景観を創造することは意義大きい仕事である。景観論の可能性

を追求する事によって、地理学の学問としての能力と価値のさらなる向上を図れないであろうか。小論は景観論の可能性を求めた自身の「景観」概念の再定義を含む今後のアジェンダの提示である。

## II. 「文化的転回」との関連

80年代後半から顕著となった「文化的転回 (cultural turn)」とは、ポストモダニズムの議論の進展とともに、人文地理学のみならず人文科学一般の関心の焦点が、政治・経済から、文化にシフトした知的状況をさす。これは学問のうえでは、文化を問題化する知としてのカルチュラル・スタディーズの出現と発展に起因するといわれるが、グランドセオリーとして社会科学の一方に君臨してきたマルクス主義理論の支配力の衰退に起因するところも大きい。唯一の正しい解答やあらゆる事象を説明しうるような根本の構造が存在するという信念はもはや過去のものとなった感がある。

ポストモダン地理学の早くからの提唱者ディア (Dear, M.1994) によれば、「文化的転回」は様式として、方法として、時代として、以前とは異なる独自の性格をもった、ポストモダニティと名づけられる後期資本主義体制下の文化/社会的現実の変貌に対応した、方法論の転回を示すものである。ポストモダンの現実とは70年代以降特に明瞭に景観のなかに具現し、地理学研究の射程に入った。ポストモダン地理学をめぐる議論については後述する。このような状況変化のもとで、英米の地理学において、政治経済学アプローチやラディカルなマルクス主義アプローチからの離反と、ダンカン (Duncan, J.S.), コスグローブ (Cosgrove, D.) らに代表される、新しい文化地理学の提唱と成長 [ジャクソン (Jackson, P.) らによる社会及び文化地理学の再生と統合を含む] が見られ、多くの新たな主張を含んだ書物が出版された (Cosgrove, D. and Jackson P. 1987, Duncan, J. S. and Duncan, N. 1988, Jackson, P. 1989, Duncan, J. S. and Ley, D. 1993, et al.)。「文化的転回」は文化地理学の成長のみならず、政治、経済、都市、フェミニストなど多くの人文地理学の分科に影響を及ぼしている。それは政治経済学的アプローチから文化・社会的なものへの関心のシフトを招来し、人間の文化的実践とアイデンティティ形成の実態と機構の解明に取り組んだ。この結果は70年代の人文主義地理学の目ざした「景観」や「場所」の記述と理解への関心を再来 [依然として持続] させた。人文主義アプローチと文化政治学的アプローチの接近は90年代の顕著な特徴といえるであろう。両者は「景観」や「場所」の概念を軸に共通して、ポストモダンの混乱の中でもはや明確な都市の景観を維持できなくなったと評される、現代の先進国の大都市に見られる諸事象の批判的な考察に向かった。またポストモダニズムの特徴の一つは「差異」に敏感なことであるが、特有の生活とももの見方を有する、「他者」の存在に鋭敏であることが、地理学の諸分科に浸透した。レイ (Ley, D.) & ダンカンは『場所・文化・表象』(Duncan, J.S. & Ley .1993.331)の中で、このような一連の傾向

をさして 'cultural turn' と表現したのである。

イギリスのジョンストン (Johnston, R.J.) の定評ある書 *Geography and Geographers* は、1997年出版の第5版において、従来からある「ラディカルアプローチ」の章に続いて、新しく「文化的転回」という章を設け、ポストモダニズム、フェミニズム、テキストと言説などにわたる叙述を追加した。このことは1987年のロンドンにおける社会地理学グループの会議(Cosgrove, D. and Jackson, P. 1987.) に端を発した以下の一連の学界の動きに対応したものである。1988年のIBG(イギリス地理学者協会)における社会文化地理学研究グループの発足、バンクーバーやシラキューズでの同様の会議の開催、*Society and Space* 誌第6巻(1988)における、グレゴリー (Gregory, D.) とレイを編集者とする文化地理学の新しい傾向を紹介する特集号の刊行、バーミンガム学派のカルチュラル・スタディーズによって鼓舞されたジャクソンの *Maps of Meaning* (1989) の出版によって、教科書的な文化地理学のガイドブックが出現したこと、続くエディンバラでの *New words, New worlds* と題された会議の記録である、フィロ (Philo, C.) 編集のIBGの社会文化地理学グループの論集の出版、さらには文化地理学分野を中心にした論文を掲載する新しい雑誌 *Ecumene* と *Gender, Place and Culture* の発刊など、急速な文化地理分野の伸長が学界を驚かせたものである。

「文化的転回」とともに、文化(culture)の意味する内容も変化した。たとえばグレゴリーほか編の教科書にみられるマクダウエルの『文化』の定義は次のようなものである。

「文化とは人々の行為と、景観や建造環境を含む人間の物的加工品の生産を形作る一まとまりの思想、習慣、信条である。文化は社会的に意味が定められ、決定される。文化の思想はこれらの思想や価値を形成し、表現し、挑戦する社会集団の生活の中に表現されている。そしてこれらの思想や価値それ自身は時間的、空間的に特有なものである」。(McDowell, R. 1994. 148.)

文化が景観を作り出すこと、そして社会によって文化が決定されていることなど、現代の社会地理学との連携に即した文化の定義といえる。

イギリスの社会地理学の訓練を受けた比較的若手の学者が最近の文化地理学の伸長の担い手となってきたことは、サウアー以来のバークレー学派の伝統を有するアメリカの文化地理学にも大きな動揺を引き起こしたといえる。文化生態学や物質文化の研究を主にしてきたアメリカ文化地理学は、新興のイギリス流の文化地理学とは違ったコンテクストを有している。両者の間の論争は学界に活気をもたらしたし、コスグローブ (UCLA) やJ.ダンカン (ケンブリッジ大) らの大陸を越えた任地の移動は両者の相互認識を促進したように思われる。近刊のミッチェルの概説書は「文化戦争」と著者が評する現代の資本主義のグローバルな文化支配に対する、批判的な色彩を強めた文化地理学からの挑戦とうけとれる。

イギリスの著者たちによる近刊の『文化的転回・地理学的転回』(Cook, I., Crouch, D., Naylor, S. and Ryan, J.R. 2000) は、「文化的転回」が地理学の新しい研究主題を呼び起こしたことを述べつつ、地理学における文化的なものとは何かについて幅広い角度から論じている。

執筆者たちはポピュラー文化と文化テキスト、文化と政治経済学、自然と社会との新しいかわり、地理学と主観性などの問題について、隣接分野との境界領域を意識しながら議論を展開している。この本の筆者のうちただ一人のアメリカの学者は、「地理学と文化人類学のよじれ」と称するものについて述べている著名な文化人類学者マーカス (Mercur, G.E.) であるが、かれはエスノグラフィーを共通項として地理学と人類学の研究を結びつけようとしている。人類学のポストモダン「表象」の危機、エスノグラフィーの批判的再生とそれに付随したポストコロニアルの議論をめぐって展開したとあってよい。他者に対する参与観察(participant observation)の実践についての内省の必要は地理学では最近までほとんど意識されてこなかった。地理学の外国研究の内容が、人間生活の内容に肉薄してこなかったあらわれでもあろう。客観的データの収集と外的景観の記述にとどまっている限りにおいて、エスノグラフィーをめぐる困難な問題は地理学者の視界には入らなかった。しかし「文化的転回」を経験した今日、検討を迫られる問題として登場してきている (Limb, M. & Dwyer, C. 2001)。

ところで参与観察に基づいたエスノグラフィーは文化人類学、社会学、地理学、建築学などの解釈学的研究になくてはならない材料といえる。言い換えればどの分野の研究者もフィールドではよく似た仕事を行うのである。問題はしかしその先の記述の核心となる材料の受け皿あるいは空間メタファーである。先のエスノグラフィーをめぐる困難の問題とあいまって、地理学のコアとなる対象が何であるかを画定し、その意義を地理学から発信していかねばならないことが痛感される。

### Ⅲ. ポストモダンの景観

社会思想としてのポストモダニズムとポストモダニティについての定義は、以下のテリー・イーグルトン (Eagleton, T.) による簡潔な説明が要を得ているので、これに従うことにしたい。

「ポストモダニズムは同時代文化のひとつの形態を、ポストモダンは歴史的時期を暗示する用語である。ポストモダンはまず真実、理性、アイデンティティ、客観性、普遍的進歩、解放、単一的枠組み、歴史的筋書き、論理の究極的基盤といった古典的概念を、徹底的に疑う思考法である。こうした啓蒙主義的価値観に対抗しながら、ポストモダンの思考法は世界を暫定的で、多様で、不安定で、しかも、基礎のない、流動的なものとみなすのである。また、世界は複数の文化、世界観からなるにもかかわらず、統一がないがため、真実、歴史、価値基準、本質の所与性、アイデンティティの一貫性には客観性がないとみるのもポストモダンの特徴である。一部でいわれているように、ポストモダニズムには物質的背景がある。それは西側資本主義が新しい形態に移行していった時期に生まれたということである。新しい資本主義は技術、消費、文化産業などからなる、流動的、脱中心的社会を作りだした。そこでは伝統的な製造業にかわって、サービス業、金融業、情報産業が主導権をとり、階級を中心にした古典的な政治にか

わって、さまざまなかたちの「アイデンティティ・ポリティックス」が展開されている。ポストモダニズムはこうした時代の様相を反映した文化である。深さがなく、脱中心化され、基礎をもたず、自己観照的で、戯れ的で、模倣的で、折衷的で、複数的なポストモダニズムは「高級文化」と「大衆文化」<sup>ハイ・カルチャー</sup>と<sup>ポピュラー・カルチャー</sup>ならびに、芸術と日常的経験の境界を曖昧なものにしている。この文化がどの程度支配的で、どれほどの広がりをもつものなのか、つまり、社会の隅々まで浸透しているのか、それとも、現代生活のごく限られた一部だけにみられる現象なのか、という議論の決着はまだついていない。」(テリー・イーグルトン、森田典正訳『ポストモダニズムの幻想』、1998、大月書店、5-6)

地理学では最近のナンシー・ダンカン (Duncan, N. 1996) の評論が参考になる。しかし筆者はいずれかというポストモダンという概念を、1970年代にチャールズ・ジェンクス (Jencks, C. 1977) が新しく登場した建築のある様式に対して命名したその定義を逸脱することなく観念することに傾斜したい。様式としてのポストモダンは人文主義的な立場からの景観の現状分析のための尺度として価値がある。ポストモダンは建築(および文芸理論)から始まった。装飾を廃した機能主義を特徴とする近代建築に対抗して、装飾を復活させ、メタファーやシンボリズムを好み、ヴァナキュラーやノスタルジックな過去からの引用を多用した折衷的な建築様式が登場したのが、そもそものポストモダンの源である。筆者は地理学におけるポストモダン、とくに景観のポストモダンについて考察する際にこの事実は銘記されるべきだと考える。合理主義、機能主義の空間に代って人間の主観性に呼応した流動的、表現的な景観の形成が希求されたという点に戻るということである。その後間をおかずに脱工業化によって成長した文化資本がこのような考えを取り込み、景観の商品化を急速に進行させたのである。この点で通説である、高級モダニズムへの反対、脱工業化社会、消費社会、メディア社会の出現、換言すればF.ジェイムソン流の後期資本主義の最近の変容によって出現した特有の文化としてポストモダンをとらえる見方は、一面的にすぎるようにも思われる。近代の終焉はすでに19世紀末にその兆候が見られるといえるし、表現主義の建築はモダンへの反逆という側面を持っていた。ポストモダンの景観は本来、人間主義的な、人間性を表出した景観として受けとられるべきである。この点からいえば、ディズニーワールドやロスのボナヴェンチャーホテルなどの景観はいずれも本来のポストモダンの範疇に含まれるべきかどうかは疑わしい。

ともあれしかしポストモダンは1979年刊のリオタール (Lyotard, J-F.) の書『ポスト・モダンの条件』によって、現代の社会思想の中に浸透した。リオタールは大きな物語の支配から、多様性と差異の強調とそれらのコンペティティブな並存への移行を主張していた。社会地理学において、移民、黒人、少数民族、女性、宗教団体などの多様なサブカルチャーを有する社会集団についての考察の増大は、この流れの影響によるものであった。もっとも一部にみられる度の過ぎた反本質主義やニヒリズムは地理学の研究にとって直ちに有効であるとは考えにくい。相対主義的な多様性尊重のスタンスは地理学には古くから備わっていた。

ところでグレゴリー (Gregory, D. and Walford, R. 1989. 68) はポストモダンの景観について早期に論じた注目すべき例として、レイのバンクーバーの都市景観の研究 (Ley, D. 1980. 1987) をあげている。レイはバンクーバーのフォールスクリークという入江の兩岸の再開発計画が、その開発計画の行政主体が異なることによって、違った景観計画の下に建設されたことを具体的に明らかにしている。すなわち市によるフォールスクリークの南岸の開発プランはリベラルなイデオロギーに基づき表現的な景観の創出を目ざした。デザインや構成の多様さ、建物の低密度と低層化、および建物の種類の豊富さや所有形態の多様さによる住民のバラエティーの確保、小さな単位のコミュニティーを創造しようとの試み、車を遠ざけた歩行者優先の道路計画、ローカルな動植物を配したり、昔の工場など伝統的建物の保存に配慮した設計、個性的な品物売るバザールや芸術活動の拠点を持つ地区の併設など、この開発はポストモダンの生活スタイルに合わせた建築理念に根ざすものであった。これに対してプリティッシュ・コロンビアブレイスと名づけられた、入江の北岸地域の再開発はネオ保守主義の考え方が色濃く出ている。大衆社会のためのよりインスツルメンタルな景観作りが行われた。大スポーツ競技場を建設することにより見世物の場、大衆動員の場を作ること、また万国博の会場とすること、高速道路、高速鉄道の建設などが開発の核となる。住宅建設の割合は少なく、しかも高層建築である。古い建造物の再利用は断念される。ここは合理的なテクノロジーのモニュメントになっている。

「建築は空間の中へと転換された時代の意志である。そこでは景観はより幅広い政治文化のコンテキストの中で解釈され、様式は社会生活における思想と関心の相互関連領域における一つの要素として見られる」 (Ley, D. 1987. 54)。

レイはすでに1980年代初頭から、脱工業化に伴うバンクーバーの都市変化について考察を進めていたので、ポストモダンの思潮がどのような景観の創出を目ざしたのかについて注意を払っていたといえる。そこでレイはこうした対照的な景観が創出されたのは、一方が、1970年代半ばに始まった表現的価値を採用した新しい階層の自由業の人たちを中心にした市民改革運動により作られ、他方は、ネオ保守的なイデオロギーに根ざした州政府による、今世紀初頭に信奉された合理主義に基づいた大衆社会のための商業主義的アイコンを再創造しようとする試みであるとして、景観形成における思想と政治的ヘゲモニーとの結びつきを例証したのである。

グレゴリーの上記論文では、人文地理学の新しい構築を図るための招待であるとして、ポストモダニズムを前向きに受け取っている。ポストモダニズムがそれまでの学問のパラダイムを転換し、実証主義科学や構造化理論に反対し、差異に敏感であるべきことなどを主張していることに言及している。

一方、南カリフォルニア大学のディアは早くからポストモダニズムの地理学への影響についてコメントしていた。『ポストモダン地理学』(1989)の著者ソジャ (Soja, E.) も同時代のロサンジェルスの実現をイメージの源としながら、ポストモダンの時代について考え続けていた。ディアの言を借りると、1986年の *Society and Space* 誌に現れたディアのポストモダンの都市



計画に関する論文とソジャのロスアンジェルスを主題にした論文が、地理学におけるポストモダンの議論の最初であるという。ディアの考えは1994年の*Erdkunde*誌上に発表された論文に最も要領よくまとめられている。かれの所説はジョンストンの前掲書(Johnston, R.J. 1997.271-3)に簡潔な紹介があるから、それに譲るが、ジョンストンはディアがポストモダニズムの人文地理学への影響を全く肯定的に評価していることに注目している。ディアは1989年ごろから出版された多くの業績が、次の7つの領域で意義深いポストモダンの意識を表しているとしている(Dear, M. 1994.7)。

1) 文化景観と「場所創造」、2) フレキシブルな蓄積とポストフォーディズムの経済景観、3) 空間と言語に関する哲学的、理論的論争、4) 地理的著述とイメージ創造における表象の問題、5) ポストモダニティと差異の政治学、6) 個人の構築、7) 自然と環境問題の重要性の認識

以上のうちのほぼすべてが、直接、間接に景観の問題と密着していることは注意されるに値する。ポストモダンの意識は人間らしさ、快適さの追求と密接に結びついている。もちろん問題はある。ポストモダンの快適さからはみ出た、最初から排除された部分、絶対的な貧困やネットワーク外の存在への考慮がないという点である。この点は後にも触れられよう。

近刊の『ポストモダン地理学』(Minca, C.2001)は、ディア、ソジャ、ミッチェルらの現代の課題に関連した論文を掲載している。全体は都市、規模、地図化という3部からなっていて、まさに21世紀の地理学の行方を暗示する内容となっている。

#### IV. 80年代末からの景観研究の展開

ポストモダン地理学の議論や新しい文化・社会地理学の主張が現れた80年代後半、とりわけ1989年は学説史上でのひとつの転回点といえる。この年には単行本だけに限ってみても, Agnew and Duncan, *The power of place*. Boal and Livingstone, *The behavioural environment*. Gregory and Walford, *Horizons in human geography*. Harvey, *The condition of postmodernity*. Jackson, *Maps of meaning*. Kobayashi and Mackenzie, *Remaking human geography*. Peet and Thrift, *New models in geography*. Soja, *Postmodern geographies*. Wolch and Dear, *The power of geography* などが刊行されている。90年代における研究の方向が定められたエポックメイキングの年といえる。

ここで80年代末以降、最近に至るまでの景観や場所に関する研究の展開を通覧してみると、以下のような6つの特徴が指摘できよう。

1 テキストとしての景観解説： コスグローブは「景観」という思想(見方)が、近代初期からの資本主義の史的発展と啓蒙的転換に関連して現れてきたことを強調して来た。この世界を見る見方(a way of seeing)としての「景観」という思想の提唱とともに、いかに「景観」

のイメージに従って現実が作られたか、何が読まれるべきテキストを構築するのか、それをいかに解釈することができるのか、といった一連の問題が論じられてきた。景観をかつてのような文化を通しての人間と環境の相互作用の物的結果ではなく、文化的、歴史的に特有なものの方の見方、表象の仕方とみなすこと、景観を政治的イデオロギーの物的あらわれとみなすことなど、景観の出現の背後にある文化、社会、経済的状况と政治的権力の相互関係を露呈させる試みが現れた。とくにJ.ダンカンによるスリランカのキャンディ王国とイギリス植民地時代における景観にかかわる政治と文化の詳細な考察は、景観の解釈や表象に関するこれまでに類例のない研究である。

「景観は、私が論ずるように、文化システムの中の中心的要素の一つである。というのは物体の秩序ある集合として、テキストとして、景観はそれを通じて社会システムがコミュニケーションされ、再生産され、経験され、探求される、一つの意味を与えるシステム (a signifying system) として働く。景観のこの構造づけられたそして構造を与える性質を理解するために、われわれはまず第一に景観によって何が意味されるのかの探査へと向かわねばならない。私はこれを景観の意味作用と呼ぶであろう。第二にわれわれはこの意味作用が起こるあり方を検討せねばならない。私はこれを景観のレトリックと呼ぶことにする」(Duncan, J.S. 1990.17)。

2 ポストモダンの都市景観、とくに消費景観の批判的考察： 文化の大衆化と複製文化の氾濫の中、グローバルな規模で展開する文化産業、消費文化の作りだす「景観」の描写とその批判的考察が開始された。ディズニー化やマクドナルド化と称される現象、メガモールや観光地の景観などが検討される。景観や文化が商品としての市場価値を持つこと、人間の行動を操る用具になりうるということが認識される。ポストモダンとは意味を求める要求であるといえるとして、地理学的ポストモダンは意味深い景観の発見や創造を求める。景観は実用的、社会的、経済的、政治的条件の物理的形態への転成物である。ここに景観形成のメカニズムを理解するためのキーと通路がある。

3 「空間の生産」論との接合： 構造とagencyをめぐる議論に始まり、1983年に新しく創刊された *Society and Space* 誌などで戦わされた、「景観」はだれによって、どのような意図で、どのような過程を経て建造されるのかという問題は、ルフェーブル (Lefebvre, H.) の「空間の生産」論との接合点を持ち、空間創出の文化政治学的考察に向かった。ルフェーブルによれば、空間性は実体化された認識可能な社会的生産物であり、物質的空間と精神的空間の両方を包含し、それらを社会化し、改変するところの第二の自然の一部である。「建造環境 (built environment)」概念は空間性と景観を結びつける側面を多分に有するようと思われる。ソジャは現実の場所と想像の場所を表象する空間として「第三の空間」(Soja, E. 1996.) を提案した。

4 景観研究と「他者」の政治学との接合： 新しい文化・社会地理学では、いろいろな「他

者」の日常生活のコンテクストとしての「景観」や「場所」の記述が重視される。他者がその文化的実践によって作り出している日常景観を知り、差異化され、決定づけられ、緊張をはらんだ場所の存在を露呈させようとするのである。日常生活世界の記述のための qualitative methodとして、改善された「参与観察」が用いられる。class, gender, race, ethnicity, sexualityの差異と政治的争いに注意が払われる。

5 「景観」と「場所」の記述： ポストモダンのコンテクストのなかで、景観に付与された意味や価値は、場所に根ざした人間生活にいかに関与するのか。グローバルとローカルのせめぎあいの中で、ローカルな経験はその生起する場の本来的特性から単純に説明されえない。景観を作り出す仕組みの考察は、その展開の規模と土地所有に関する考察なしでは行えない。

景観の観察と記述を研究の中心にすえてきたレルフ (Relph, E.) は、「混乱した地理学の批判的記述」と題された最近の論文の中で、ポストモダンのコンテクストのなかで困難になった「景観」や「場所」の記述に関して次のように述べる (Relph, E. 2001. 153-154)。

ポストモダンは一過性のもではなく、認識論の上でも、地理的にも深刻な変化を引き起こしている。認識論的には普遍的な原理が後退し、コンテクストに依存した説明が支配する。地理的にはラスベガスに見られるような、気まぐれな要素の並存、メガモールやテーマを持ったゲートのある共同体、インナーシティの文化のごったまぜなど、ヘテロトピア (heterotopia) という言葉でまさしく言い表せる状況が支配的である。グローバルとローカルの間のたちの悪い混在もあいまった、このような状況はコンベンショナルな記述を拒む。「地域」という昔の術語も、place and placelessness という新しい用語も、このポストモダン世界を記述するのに大した価値を持たない。ポストモダニティの混乱に対応した批判的記述の方法が探られねばならない。合理的知識や概念の正当性のためのしっかりした根拠が揺らいでいる今、つまるところ、経験的、ローカルで、歴史的、懐疑的、理性的であれということ、日常景観に基礎を置き、ごまかしを暴き出し、批判的・歴史的見通しを保持し、均衡と中庸の水準を採用せねばならないと考える。

景観を記述する方法について持続して考え続けてきたレルフの一見平凡に見えるこの発言は、自身が採用してきた現象学的な日常景観の観察、思考、記述の有効性を再確認しようとするものである。

6 「ヘテロトピア」概念の使用： ポストモダンの空間を捉えるための概念としてフーコーの提案した「ヘテロトピア」が多くの論者に注目され、使用が試みられている。これについては章を改めて後述する。

「端的にいうなら、われわれはポストモダンの意識の時代に生きている。すなわち、もしわれわれが無知である、あるいは現状維持を好むと宣言する用意があるとするならともかくも、このことに選択の余地はない。地理学の思考の中に革命のようなものが起こりつつあることをわたしは信ずる」(Dear, M. 1994. 9.)

ジョンストンやN.ダンカンがポストモダニティに懐疑的であるのに対し、ポストモダニティを肯定的にとらえるディアのこの発言はやや楽天的ではあるが、間違った認識とは思えない。ディアは最近の論文「ポストモダン転回」(Dear, M. In Minca, C.(ed.), 2001: 10-11.)の中でポストモダニズムに対する懐疑的な態度を6か条に分けて批判の矢を放った。

筆者はわれわれがポストモダンの時代に生きていること、ポストモダン様式なるものはすでにかなり以前に現れ、一過性のものではないことを是認する。従ってポストモダンの人間生活と景観研究についての方法論が探られねばならないと考える。

## V. ヘテロトピアとしての景観

近年のポストモダン地理学をめぐる議論の中でしばしば引き合いに出されるヘテロトピア(heterotopia)とは、ミシェル・フーコーが1967年のパリにおける講演の中で提示した社会空間の概念である。1966年刊の『言葉と物』の中でもすでに類似の概念が提示されていた。

ヘテロトピアとは、現実世界の空間ではあるが、具体的に立地を特定して通常の地誌学的解説を付すことのできるような実在ではなく、あらゆる種類の異質な空間(とくに現代のさまざまな周縁的な場を含む)を同時に反映させる鏡像のような空間である。ヘテロトピアは断片的で、差異を有する、不釣り合いな空間の並置されたもの、お互いに共通の場所的基礎を持たず、直接のコミュニケーションも見出せない、ひとつの空間に統一することのできない異種混在の空間である。

「おそらくどの文化、どの文明にも、その文化のうちに見出されることができ、その他のすべての現実の場が同時に表象され、争われ、そして転倒させられてしまう、何か対抗場(counter-sites)のような、ある種の効果的に規定されたユートピアのような現実の場所、まさしく社会の基底部で形成され、実在する場所がある。たとえ現実のなかにそれらの立地を示すことが可能であるとしても、この種の場所はすべての場所の外にある。この種の場所はそれらが反映したり、語ったりする他のあらゆる場とは絶対的に異なっているゆえに、私はユートピアと対比させて、それらをヘテロトピアと呼ぶであろう」(Michel Foucault, (Miskowiec, J. translation) Of other spaces. Diacritics 16. 1986. 24.)

ヘテロトピアはまさしく都市空間の現代を象徴する概念である。隣接して同時に存在しながら、通常は気づかれることのない相互に断絶した空間の並存状態を映し出す。モダンの周縁の場所としてフーコーは提唱したのかもしれないが、ポストモダン都市の典型的な状態として観念することもできる。フーコーはヘテロトピアの例として、次のようなものを挙げているが、これらはモダンの周縁的な場として、その閉じた状態と確実性が常に崩壊の危機にさらされている施設である。

- 1 危機のヘテロトピア・・・青春期の青年、生理期の女性、妊娠中の女性、老人らのための

禁断の場所。

逸脱のヘテロトピア・・・精神病院、監獄、老人ホームなど

2 共同墓地

3 オリエントの庭園、劇場、映画館

4 博物館、図書館、あるいは祝祭、市場、休暇村

5 アクセスの開閉システムを持つ施設・・・イスラム教徒の共同浴場、隠れたセックスが可能なアメリカのモーター等

6 コロニー、船

フーコーのヘテロトピア概念はこれが草稿中に見出されるものでもあり、それゆえにじゅうぶんに練り上げられたものではなく、あいまいでそこから多様な解釈と発想を引き出すことが可能である。ソジャをはじめ幾人かの地理学者が、この概念を援用してポストモダン世界の記述を試みている。ここで簡単にヘテロトピアについての地理学からの言及についてまとめておく。

ソジャ(Soja,E. 1989.16-21)がこの概念を紹介したのと時を同じくして、ハーヴェイ(Harvey,D. 1989.48)は、ヘテロトピアという言葉でフーコーが意味しているのは、「不可能な空間」と「多くの断片的な可能の世界」が同時存在すること、より簡単にいえば、不釣り合いな空間が相互に並置するか重なり合う状態で共存していることである、と解説した。

レルフ(Relph,E. 1991)は、ポストモダン地理学についての書評論文の中で、ヘテロトピアという見出しを設けて、ハーヴェイやソジャによって引き合いに出されたこの概念への注意を促した。彼は多様で、混沌として、変化し続け、普遍的な原理を欠き、中心なき情報の流れによって繋がれた、人工の、社会的な不平等を呈する、ポストモダンの地理的状況を記述するためのふさわしい術語として、ヘテロトピアを用いる。ヘテロトピアとは「非常に異なっていてそれらに共通の論理を見出すことが不可能なような事物を内容に持つ多数のローカリティをもった空間、その中のすべてのものが何だか場所の外にあるような空間」とみなしているようである。前述の近刊論文「混乱した地理学の批判的記述」の中でレルフは、「貨幣というものがヘテロトピアの過程の中に深く埋め込まれている」(Relph,E. 2001.155)と資本主義の関与を暗示する傍ら、理論なき、中心性なき現代を覆いつくす不確定さ、あいまいさこそがポストモダンの本質であると考えているように思われる。そして景観を構成する諸要素が気まぐれに混在するラスベガスの景観を記述するのにまさにふさわしい語として、ヘテロトピアを用いるのである。

グレゴリー(Gregory,D. 1994.150-7)は、上記レルフの論文を引用し、ヘテロトピアという語についてフーコーの意味した「モダニティの周縁的な場で、絶えず閉じた状態と確実さが崩壊に迫られている」とレルフの「ポストモダニティの一般的傾向」という解釈とのずれを指摘しながらも、ソジャやディアのロスアンジェルスをもポストモダン都市の典型として眺める視点に関心を寄せる。

ジェノッキオ (Genocchio, B.) の「言説、不連続、差異：他なる空間 ('other'space) の問題」によると「ヘテロトピア概念はしだいに増加する、精査され、分離され、シミュレートされた社会空間秩序に対するわれわれの抵抗のひとつのかたちを具体的に表現するところの、社会的に構築された対抗場を記述するのにとりわけ価値がある」(Genocchio, B. 1995.36) として社会空間の理論家に注目されていることを指摘した上で、しかし多くの場合、フーコーのテキストが批判的に検討されていないこと、フーコーのヘテロトピアはアイデア上のもので現実の場としては実在しないと結論づけている。

リーズ (Lees, L. 1997.) は、バンクーバーの新しく建設されたコロッセウムの形をした公共図書館をヘテロトピアに見立てて言説を展開する。この論文は公共空間が私的空間にとって変わられる傾向が進行する現代都市において、市民の抵抗のための効果的な場所として、そして次第に私有化される都市環境における政治活動のための源として、公共図書館の潜在性を評価しようとしたものである。この論文の例では、ヘテロトピアは図書館という建造物、施設であって景観ではない。

最近のグアラッシ (Guarrasi, V. 2001.) の論文「モダンとポストモダン地理学のパラドクス：景観のヘテロトピアと地図学的論理」は飛躍が多くて読解しにくい論文であるが、ヘテロトピアの考えに欠けているのは景観概念であるとして、景観をヘテロトピアとしてみるという首肯すべきアイデアを含む内容である。

以上の諸論考の検討から明らかになることは、ヘテロトピアという用語の使用法は多様であり、確たる定義はいまだ定まっていないということである。筆者はヘテロトピアをポストモダンの都市空間ないし景観の状況を示す用語として使用するのが有益だと考えている。その場合に、しかしポストモダン地理学の景観記述が、近代文化の志向した美的統一としての性格を捨てて、混沌と並置の中に他者を映し出す鏡としてのヘテロトピアとしての景観概念を意識したものにならざるを得ないとしても、ヘテロトピアをいかに知覚し、理解することができるのかそれが問題である。ヘテロトピアが周縁の場所で、現実世界の折々に、あるいは地理的想像力の助力によって、認識できるものであるのか、それとも現実の都市が、何やら従来通用していた地理的記述や分析の手に負えないポストモダンの状況を呈するように変貌してきたのか（フーコーのもともとの意味では、今まで見えにくかったものが見えるようになって来たのかもしれない）。空間・景観研究におけるヘテロトピア概念の有効性の議論をさらに深化させていかねばならない。例えば「建築様式」としてのポストモダンの存在を最初に指摘したジェンクス (Jencks, C. 1993) が多様な建築とエスニシティを有するロスアンジェルスに「ヘテロポリス」としてとらえ、多様な差異性への愛を基礎とした heterophilia を提唱しているのに魅かれるところがある。

## VI. 結び：「景観」概念の新しい定義と今後への展望

景観論の可能性について考えることが、本稿の目的の一つであった。これまでの考察をもとに、現在の時点での「景観 (landscape)」の定義づけを試みてみると、次のようになる。

- (1) 景観とは本来、地表上のある地点から、視覚に代表される五感によって感覚的に知覚される、ある一定の広がり (領域) とまとまりある外観 (アスペクト) を持った、人間と動植物の生活する地圏・水圏と気圏との接触部分に並存する自然・人文の諸事象の総体をさす。
- (2) 景観は、現代の地理学においては、建造された構築物の集まりのような物質的な対象として、また人間のさまざまな生活実践とそれらの象徴的な表象物のような精神的な対象として、もしくは両者の複合した対象として、概念化され、考察されている。その意味で文化景観とは人工的構築物のみならず、人間がその文化を通じて形成した象徴的で体系的な表象物ないしはイメージ、すなわちさまざまな人間が行為と経験のなかで、意図や態度のさまざまな組み合わせを通じて、事物に付与した意味や価値の網の目とみなすことができる。
- (3) 景観はさまざまな時期の文化を通じて、長い歴史の過程を経て形成された重層的存在であり、人間の日常生活世界の場所的基礎を提供している。それは物的実在として、象徴体系として人間の活動を拘束し、人間集団内の意味の共有とコミュニケーション作用の媒体となり、人間生活のアイデンティティとセキュリティの源泉となっている。

現代における景観研究の意義と課題はどのようなものであろうか。良き景観の形成・構成は人間生活にとって重要な意義を持つ。良き景観の形成・構成のためには、人間生活の場所的コンテキストを解明し、景観や場所の意義を理解することが重要である。景観は物的存在であるとともに、人間の営みの中で一つの象徴的な存在として意味づけられたものといえる。(地理学的) 思考と想像力を持ちいて、景観を注視し、テキストとして解釈することにより、景観製作者のイメージや意図の理解をはじめ、景観の意味や価値の読解、景観の意味を紡ぎ出す作用、さらには景観が文化 (道徳、芸術などを含む)、社会、経済、政治などによって作られたり、変化させられたりする仕組みと過程を追究することができる。このような景観の観察と意味の解読によって、日常生活の世界における場所のコンテキストとその意義が理解でき、景観の現状への批判的な評価と人間の生活にとってふさわしい景観作りに役立てることができる。ポストモダンの景観を観察し記述するための改善された景観概念と研究方法の使用が求められている。

おわりに新しい「景観」概念を基にした地理学の今後の研究課題への展望を略述して、本稿の締めくくりとしたい。

- 1 差異への注目： 交通・通信手段の革新による世界の収縮とともに、差異が可視的となってきた。間主観的な、あるいはサブグループの文化が根ざす「景観」や「場所」のアイデン

ティティの研究が志向される。景観が a way of seeing であるとする、それを見る目と同じ数の見方があることになる。ヘテロトピアはそれらの差異ある断片を同時に映し出す概念装置である。しかし差異というものは真に共通の基礎を何ら有していないのだろうか。見方の違いは文化による思考の様式の違いではないだろうか。差異を顕在化させるという戦略は、一方でその共通性を過小評価したり、発達段階としての思考様式と言語の絶対的な相異を相対化しすぎる嫌いがある。差異の強調の政治性と客観的な科学的認識の間の不一致とも言うべきものが存在するように思われる。

- 2 「景観」の記述と解釈の方法： 日常景観の複雑さ、遠隔コミュニケーションや移動によって錯綜した日常生活に対応したコンテクスト的記述の方法を開発すること、差異に鋭敏で矛盾やあいまいさに注意を払った、しかも歴史を無視しない批判的な記述法の開発が求められる。テキストとしての景観の解読についても、いったい「本を読むように景観を読めるのか？」という問題の検討がなされねばならない。なぜなら、その読まれるべきテキストを同定する作業、およびそれに先立つ他者の日常実践の経験的(参与的)調査をめぐるさまざまなクリアすべき論点が存在する。
- 3 ヘテロトピアとしてのポストモダンの景観： 現代においては、ローカルなコンテクストのみの考察では、グローバル化した今日の世界における個別の景観や人間生活の説明や理解が不可能である。現代の景観は世界的な規模で活動する企業や国家あるいは文化の力によって形成され、変容させられている。グローバルな規模における人、モノ、情報の流動は結果としてさまざまな地域的不均衡、不平等、生活世界の断片化を助長している。現代の大都市の抱える諸問題を一覧するのには、先に検討したヘテロトピアの概念が有効であろう。
- 4 人文・社会科学との共通の場： ここ四半世紀における「場所」概念の展開は、景観論の中身をよりインターディシプリナリーなものに変え、建築学、社会学、文化人類学、政治学等への関連づけがより強いものとなった。ポストモダン論争における地理学の参与は注目すべき出来事であった。しかしながら日本の地理学界ではこのような「文化的転回」に棹差す欧米における研究動向の消化が十分でない。諸関連学科との苛烈な競い合いの状態の中で、景観概念を軸に、研究の新しいフロンティアを拓いてゆく柔軟なアジェンダを設計して行かねばならない。

\*

「現代社会は見世物の社会ではなく、監視の社会である。・・・個人の美しい全体性は、現代の社会秩序が切断手術を加えたり、抑圧したり変質させられたりしてはいないが、その社会秩序において個人は、力と身体に関するひとつの戦術に基づき、注意深く作り上げられている。」(Gregory,D. 1994.62-63.)

人間のからだは極言すれば、ある種のたんぱく質とそれに付随した無数の情報の結合体だという。しかし人間はレプリカントではない。依然、自分の意志を持ち、また鋭い自己感覚を有



している。

「私は2人の友人と歩いていた。太陽が沈んだ。突然空が血のように赤くなった。ものうい気分におそわれる。私は立ち止まって手すりにもたれた。ひどく疲れていた。群青色のフィヨルドと街の上に、血のような炎の舌のような雲がかかっていた。友人たちは歩き続けたが、私はふたたび立ち止まり、恐怖におののいた。自然をつらぬいてゆく声高い、果てしない叫びを聞いた。」(ヘラー、佐藤節子訳「エドヴァルト・ムンク 叫び」、みすず書房、1981.104)

ポストモダンの景観を感受し、批判し、朔成する営みは地理学的想像力と触覚的な予知能力を持った豊かな情感を要求するように思われる。

#### Select Bibliography

- Adams,P.C., Hoelscher,S. and Till,K.E. (eds.), *Textures of place: exploring humanist geographies*. Minneapolis: University of Minnesota Press.2001.
- Agnew,J.A. and Duncan,J.S. (eds.), *The power of place: bringing together geographical and sociological imaginations*. Boston: Unwin Hyman. 1989.
- Anderson,K. and Gale,F. (eds.), *Inventing places: studies in cultural geography*. Melbourne: Longman Cheshire. 1992.
- Atkinson,D. and Cosgrove,D., Urban rhetoric and embodied identities: city, nation and empire at the Vittorio-Emmanuel II monument in Rome 1870-1945. *Ann.Ass.Am.Geogr.* 88-1. 1998.
- Barnes,T.J., Rethorizing economic geography: from the quantitative revolution to the "cultural turn". *Ann.Ass.Am.Geogr.* 91-3.2001)
- Barnes,T.J. and Duncan,J.S. (eds.), *Writing worlds: discourse, texts and metaphor in the representation of landscape*. London: Routledge. 1992.
- Barnett,C., The cultural turn: fashion or progress in human geography? *Antipode* 30. 1998.
- Barnett,C., Cultural twists and turns. *Environment and Planning D: Society and Space*. 16-6. 1998.
- Barnett,C., Culture, geography, and the arts of government. *Environment and Planning D: Society and Space*. 19-1.2001.
- Benko,G. and Strohmayer,U. (eds.), *Space and social theory: interpreting modernity and postmodernity*. Oxford: Blackwell. 1997.
- Berg,L.D., Between modernism and postmodernism. *Progress in Human Geography* 17-4.1993.
- Bird,J., Curtis,B., Putnam,T., Robertson,G. and Tickner,L. (eds.), *Mapping the futures: local cultures and global change*. London and New York: Routledge. 1993.
- Bishop,P., Rhetoric, memory, and power: depth psychology and postmodern geography. *Environment and Planning D: Society and Space* 10-1.1992.
- Boal,F.W. and Livingstone,D.N. (eds.), *The behavioural environment: essays in reflection, application, and*

- re-evaluation*. London and New York: Routledge. 1989.
- Bunkse, E.V., Saint-Exupery's geography lesson: art and science in the creation and cultivation of landscape values, *Ann.Ass.Am.Geogr.* 80-1.1990.
- Buttimer, A., *Geography and the human spirit*. Baltimore: The Johns Hopkins University Press. 1993.
- Castree, N., Situating cultural twists and turns. *Environment and Planning D: Society and Space* 17-3.1999.
- Cloke, P., Philo, C. and Sadler, D. (eds.), *Approaching human geography: an introduction to contemporary theoretical debates*. London: Paul Chapman Publishing Ltd. 1991.
- Cook, I., Crouch, D., Naylor, S. and Ryan, J.R. (eds.), *Cultural turns /geographical turns: perspectives on cultural geography*. Harlow, Essex: Pearson Education Ltd. 2000.
- Cooke, C., Individuals, localities and postmodernism. *Environment and Planning D: Society and Space* 5. 1987.
- Cooke, P., Back to the future: *modernity, postmodernity and locality*. London: Unwin Hyman. 1990.
- Cosgrove, D., Towards a radical cultural geography: problems of theory. *Antipode* 15. 1983.
- Cosgrove, D., *Social formation and symbolic landscape*. London: Croom Helm. 1984.
- Cosgrove, D., Prospect, perspective and the evolution of the landscape idea. *Trans.Inst.Br. Geogr.* N.S.10. 1985.
- Cosgrove, D., A terrain of metaphor: cultural geography 1988-89. *Progress in Human Geography* 13-4. 1989.
- Cosgrove, D., ... The we take Berlin: cultural geography 1989-90. *Progress in Human Geography* 14-4.1990.
- Cosgrove, D., Orders and a new world: cultural geography 1990-91. *Progress in Human Geography* 16-2. 1992.
- Cosgrove, D. and Daniels, S. (eds.), *Iconography of landscape: essays on the symbolic representation, design and use of past environments*. Cambridge: Cambridge University Press. 1988.
- Cosgrove, D. and Jackson, P., New directions in cultural geography. *Area* 19-2. 1987.
- Crang, M., Picturing practices: research through the tourist gaze. *Progress in Human Geography* 21-3. 1997.
- Crang, M., *Cultural geography*. London and New York: Routledge. 1998.
- Crump, J., What cannot be seen will not be heard: the production of landscape in Moline, Illinois. *Ecumene* 6-3. 1999.
- Curry, M., Postmodernism, language, and the strains of modernism. *Ann.Ass.Am.Geogr.* 81. 1991.
- Dear, M., Postmodernism and planning. *Environment and Planning D: Society and Space* 4.1986.
- Dear, M., The postmodern challenge: reconstructing human geography. *Trans.Inst.Br.Geogr.* N.S.13.

- 1988.
- Dear, M., Postmodern human geography: a preliminary assessment. *Erdkunde* 48. 1994.
- Dear, M., The relevance of postmodernism. *Scottish Geographical Magazine* 115-2. 1999.
- Dear, M., *The condition of postmodern urbanism*. Oxford: Blackwell. 2000.
- Dear, M. and Flustry, S., Postmodern urbanism. *Ann. Ass. Am. Geogr.* 88. 1998.
- Duncan, J.S., *The city as text: the politics of landscape interpretation in the Kandyan kingdom*. Cambridge: Cambridge University Press, 1990.
- Duncan, J.S., Landscapes of the self/landscapes of the other(s): cultural geography 1991-92. *Progress in Human Geography* 17-3. 1993.
- Duncan, J.S., The politics of landscape and nature, 1992-93. *Progress in Human Geography* 18-3. 1994.
- Duncan, J.S., Landscape geography, 1993-94. *Progress in Human Geography* 19-3. 1995.
- Duncan, J.S. and Duncan, N., (Re)reading the landscape. *Environment and Planning D: Society and Space* 6. 1988.
- Duncan, J.S. and Duncan, N., The aestheticization of the politics of landscape preservation. *Ann. Ass. Am. Geogr.* 91-2. 2001.
- Duncan, J.S. and Ley, D. (eds.), *Place/ culture/ representation*. London: Routledge. 1993.
- Duncan, N., Postmodernism in human geography. In Earle, C., Mathewson, K. and Kenzer, M.S. (eds.), *Concepts in human geography*. Lanham, Maryland: Rowman and Littlefield Publishers. 1996.
- Earle, C., Mathewson, K. and Kenzer, M.S. (eds.), *Concepts in human geography*. Lanham, Maryland: Rowman and Littlefield Publishers. 1996.
- Entrikin, N., *The betweenness of place: towards a geography of modernity*. London: Macmillan. 1991.
- Eyles, J. and Smith, D.M. (eds.), *Qualitative methods in human geography*. Cambridge: Polity Press. 1988.
- Folch-Serra, M., Place, voice, space: Mikhail Bakhtin's dialogical landscape. *Environment and Planning D: Society and Space* 8. 1990.
- Foote, K.E., Hugill, P.J., Mathewson, K. and Smith, J.M. (eds.), *Re-reading cultural geography*. Austin: University of Texas Press. 1994.
- Genocchio, B., Discourse, discontinuity, difference: The question of 'other' spaces. In Watson, S. and Gibson, K. (eds.), *Postmodern cities and spaces*. Oxford: Blackwell. 1995.
- Goss, J., The magic of the mall: form and function retail built environment. *Ann. Ass. Am. Geogr.* 83-1. 1993.
- Goss, J., Once-upon-a-time in the commodity world: an unofficial guide to Mall of America. *Ann. Ass. Am. Geogr.* 89-1. 1999.
- Gould, P. and Olsson, G. (eds.), *A search for common ground*. London: Pion. 1982.
- Gregory, D., *Geographical imaginations*. Oxford: Blackwell. 1994.

- Gregory,D. and Ley,D., Culture's geographies. *Environment and Planning D: Society and Space* 6. 1988.
- Gregory,D. and Urry,J. (eds.), *Social relations and spatial structure*. London: Macmillan. 1985.
- Gregory,D. and Walford,R. (eds.), *Horizons in human geography*. Houndmills,Basingstoke, Hampshire and London: Macmillan.1989.
- Guarrasi,V., Paradoxes of modern and postmodern geography: heterotopia of landscape and cartographic logic. In Minca,C. (ed.), *Postmodern geography: theory and praxis*. Oxford: Blackwell. 2001.
- Hägerstrand,T., Landscape as overlapping neighbourhoods. In Benko,G.B. and Strohmayer,U. (eds.), *Geography, history and social sciences*. Byggforskningsradet: Kluwer Academic Publishers. 1995.
- Harvey,D., *The condition of postmodernity*. Oxford: Basil Blackwell. 1989.
- Hopkins,J.S., West Edmonton Mall: landscape of myths and elsewhere. *Canadian Geographer* 34. 1990.
- Jackson,J.B., *A sense of place, a sense of time*. New Haven and London: Yale University Press. 1994.
- Jackson,P., *Maps of meaning: an introduction to cultural geography*. London: Unwin Hyman. 1989.
- Jackson,P., Geography and the cultural turn. *Scottish Geographical Magazine* 113-3. 1997.
- Jackson,P., Rematerializing social and cultural geography. *Social and Cultural Geography* 1-1. 2000.
- Jackson,P. and Smith,S.J., *Exploring social geography*. London: George Allen and Unwin. 1984.
- Jencks,C., *The language of post-modern architecture*, New York: Rizzoli, 1977.
- Jencks,C., *Heteropolis : Los Angels : the riots and the strange beauty of hetero-architecture*. London : Academy Editions.1993.
- Johnston,R.J., *Geography and geographers: Anglo-American human geography since 1945*. Fifth ed. London and New York: Arnold. 1997.
- Johnston,R.J., Gregory,D., Pratt,G. and Watts,M. (eds.), *The dictionary of human geography*. Fourth ed. Oxford: Blackwell. 2000.
- Knox,P.L., The social production of the built environment: architects, architecture and the post-modern city. *Progress in Human Geography* 11-3.1987.
- Knox,P.L.(ed.), *The restless urban landscape*. Englewood Cliffs, New Jersey: Prentice Hall. 1993.
- Kobayashi,A. and Mackenzie,S. (eds.), *Remaking human geography*. Boston: Unwin Hyman. 1989.
- Kong,L., A 'new' cultural geography? Debates about invention and reinvention. *Scottish Geographical Magazine*. 113-3.1997.
- Lagopoulos, A.P., Postmodernism, geography, and the social semiotics of space. *Environment and Planning D: Society and Space* 11-3. 1993.
- Lees,L., Ageographia, heterotopia, and Vancouver's new public library. *Environment and Planning D: Society and Space* 15-3.1997.
- Lees,L., Towards a critical geography of architecture: the case of an ersatz colosseum. *Ecumene* 8-1.2001.

- Leitner, H. and Kang, O., Contested urban landscapes of nationalism: the case of Taipei. *Ecumene* 6-2. 1999.
- Ley, D., Cultural /humanistic geography. *Progress in Human Geography* 5-2. 1981.
- Ley, D., Cultural /humanistic geography. *Progress in Human Geography* 7-2. 1983.
- Ley, D., *A social geography of the city*. New York: Harper and Row. 1983.
- Ley, D., Cultural /humanistic geography, *Progress in Human Geography* 9-3. 1985
- Ley, D., Styles of the times: liberal and neoconservative landscapes in inner Vancouver, 1968-1986. *Journal of Historical Geography* 13. 1987.
- Ley, D. and Olds, K., Landscape as spectacle: worlds fairs and the culture of heroic consumption. *Environment and Planning D: Society and Space* 6. 1988.
- Limb, M. and Dwyer, C. (eds.), *Qualitative methodologies for geographers: issues and debates*. London: Arnold. 2001.
- Livingstone, D.L., *The geographical tradition*. Oxford: Blackwell. 1992.
- Marden, P., The deconstructionist tendencies of postmodern geographies: a compelling logic. *Progress in Human Geography* 16-1. 1992.
- Massey, D., Allen, J. and Sarre, P. (eds.), *Human geography today*. Cambridge: Polity Press. 1999.
- Matless, D., An occasion for geography: landscape, representation and the Foucault's corpus. *Environment and Planning D: Society and Space* 10-1. 1992.
- Matless, D., Culture run riot? Work in social and cultural geography, 1994. *Progress in Human Geography*. 19-3. 1995.
- Matless, D., New material? Work in cultural and social geography, 1995. *Progress in Human Geography* 20-3. 1996.
- Matless, D., The geographical self, the nature of the social and geoaesthetics: work in social and cultural geography, 1996. *Progress in Human Geography* 21-3. 1996.
- McDowell, L., Gender symbols and urban landscapes. *Progress in Human Geography* 17-2 · 3. 1993.
- McDowell, L., The transformation of cultural geography. In Gregory, D., Martin, R. and Smith, G. (eds.), *Human Geography: society, space and social sciences*. London: Macmillan. 1994
- Minca, C. (ed.), *Postmodern geography: theory and praxis*. Oxford: Blackwell. 2001.
- Mitchell, D., The end of public space?: people's park, definitions of the public, and democracy. *Ann. Ass. Am. Geogr.* 85-1. 1995.
- Mitchell, D., There's no such thing as culture: towards a reconceptualization of the idea of culture in geography. *Trans. Inst. Br. Geogr.* NS. 20. 1995
- Mitchell, D., *Cultural geography: critical introduction*. Oxford Blackwell. 2000.
- Mitchell, D., The lure of the local: landscape studies at the end of a troubled century. *Progress in Human*

- Geography* 25-2. 2001.
- Muir,R., Landscape: A wasted legacy. *Area* 30-3. 1998.
- Muir,R., *Approaches to landscape*. London: Macmillan. 1999.
- Nash,C., Performativity in practice: some recent work in cultural geography, *Progress in Human Geography* 24-4. 2000.
- Nijman,J., Cultural globalization and the identity of place: the reconstruction of Amsterdam. *Ecumene* 6-2. 1999.
- Olwig,K.R., Recovering the substantive nature of landscape. *Ann.Ass.Am.Geogr.* 86-4. 1996.
- Park,D.C., Simpson-Housley,P. and de Man,A., To the "infinite spaces of creation": the interior landscape of a schizophrenic artist. *Ann.Ass.Am.Geogr.* 84-2. 1994.
- Peet,J.R., *Modern geographical thought*. Oxford: Blackwell.1998.
- Peet,J.R. and Thrift,N. (eds.), *New models in geography: the political economy perspective*. 2 vols. London: Unwin Hyman. 1989.
- Phillips,R.S., The language of images in geography. *Progress in Human Geography* 17-2. 1993.
- Philo,C., Foucault's geography. *Environment and Planning D: Society and Space* 10-2. 1992.
- Pickles,J., *Phenomenology, science and geography: spatiality and the human sciences*. Cambridge: Cambridge University Press. 1985.
- Pile,S., Practicing interpretative geography. *Trans.Inst.Br.Geogr.* N.S.16-4. 1991.
- Porteous,J.D., *Landscape of the mind: worlds of sense and metaphor*. Toronto: University of Toronto Press. 1990.
- Price,M. and Lewis,M., The reinvention of cultural geography. *Ann.Ass.Am.Geogr.* 83-1. 1993.
- Relph,E., *Rational landscapes and humanistic geography*. London: Croom Helm. 1981.
- Relph,E., *The modern urban landscape*. Beckenham,Kent: Croom Helm. 1987.
- Relph,E., Responsive methods, geographical imagination and the study of landscapes. In Kobayashi,A. and Mackenzie,S.(eds.), *Remaking human geography*. Winchester,Mass.and London: Unwin and Hyman. 1989.
- Relph,E., Post-modern geography. (Review essay). *Canadian Geographer* 35-1. 1991.
- Relph,E., Modernity and the reclamation of place. In Seamon,D. (ed.), *Dwelling, seeing, and designing: toward a phenomenological ecology*. Albany, New York: State University of New York Press. 1993.
- Relph,E., The critical description of confused geographies. In Adams,P.C., Hoelscher,S. and Till,K.E. (eds.), *Textures of place: exploring humanist geographies*. Minneapolis: University of Minnesota Press. 2001.
- Rowntree,L.B., Cultural/humanistic geography. *Progress in Human Geography* 10-3,1986.
- Rowntree,L.B., Orthodoxy and new directions: cultural/humanistic geography, *Progress in Human Geography* 12-4. 1988.

- Rowntree,L.B., The cultural landscape concept in american human geography. In Earle,C., Kenzer,M. and Mathewson,K. (eds.), *Concepts in human geography*. London: Rowman and Littlefield Publishers. 1996.
- Sack,R., The consumer's world: place as context. *Ann.Ass.Am.Geogr.* 78.1988.
- Sack,R., *Place, modernity, and the consumer's world: a relational framework for geographical analysis*, Baltimore and London: The Johns Hopkins University. 1992.
- Sack,R., *Homo geographicus: a framework for action, awareness, and moral concern*. Baltimore and London: John Hopkins University. 1997.
- Seamon,D. and Mugerauer,R.(eds.), *Dwelling, place and environment: towards a phenomenology of person and world*. Dordrecht: Martinus Nijhoff Publishers. 1985.
- Shields,R., Social spatialization and the built environment: West Edmonton Mall. *Environment and Planning D: Society and Space* 7.1989.
- Shields,R., *Places on the margin: alternative geographies of modernity*. London: Routledge 1991.
- Smith,S.J., Practicing humanistic geography. *Ann.Ass.Am.Geogr.* 74. 1984.
- Soja,E.W., Taking Los Angels apart: some fragments of a critical human geography. *Environment and Planning D: Society and Space*. 4. 1986.
- Soja,E.W., The postmodernization of geography: a review. *Ann.Ass.Am.Geogr.* 77-2. 1987.
- Soja,E.W., *Postmodern geographies: the reassertion of space in critical social theory*. London: Verso. 1989.
- Soja,E.W., *Thirdspace: journeys to Los Angels and other real-and-imagined places*. Cambridge, Mass.: Blackwell Publishers.1996.
- Thrift,N., Steps to an ecology of place. In Massey,D. Allen,J. and Sarre,P. (eds.), *Human geography today*. Cambridge: Polity Press. 1999.
- Tuan,Yi-Fu., *The good life*, Madison, Wisconsin: The University of Wisconsin Press. 1986.
- Tuan,Yi-Fu., Surface phenomena and aesthetic experience. *Ann. Ass. Am.Geogr.* 79-2.1989.
- Unwin,T., *The place of geography*. Harlow, Essex: Longman Scientific & Technical. 1992.
- Walker,R., Landscape and city life: four ecologies of residence in the San Francisco bay area. *Ecumene* 2-1. 1995.
- Wolch,J. and Dear,M. (eds.), *The power of geography: how territory shapes social life*. Boston: Unwin Hyman.1989.
- Zukin,S., *Landscape of power: from Detroit to Desney world*. Berkley and Los Angels: University of California Press. 1991.
- Zukin,S., *The cultures of cites*. Cambridge, Mass.: Blackwell Publishers. 1995.